

○マツカゼスゲの一型 (檜山庫三) Kôzô HIYAMA: A new form of *Carex sachalinensis* Fr. Schm.

下総国犬吠岬の海近い林下で 1939 年 5 月 21 日にスゲの一種を採集して、当時これをゴンゲンスゲと誤認していたが、その後再検の結果マツカゼスゲの一型であることが明かとなった。主な違いは果胞が少し長く約 3 mm あつて且つ無毛なことであるが、小穂もあまりはつきりした帯褐色とは云えない。これを新品種と認めてメマツカゼスゲ (*Carex sachalinensis* var. *pineticola* f. *calvescens* Hiyama) の名を与える。尙マツカゼスゲの産地も同じく犬吠岬であるから両者は恐らく混生もするであろう。

*Carex sachalinensis* Fr. Schm. var. *pineticola* (Ohwi) Ohwi, Fl. Jap. 196 (1953).—*Carex pineticola* Ohwi in Bull. Nation. Sci. Mus. 26: 5 (1949).

forma *calvescens* Hiyama, n. f.

Utriculis 3 mm longis glabris.

Hab. Hondo: Inubôtsaki, Chôshi, prov. Shimôsa (Hiyama, Mai. 21, 1939—in Herb. Nation. Sci. Mus., Tokyo).

○屋久島の海拔 700 m の所にヘゴ自生す (新 敏夫) Toshio SHIN: *Cyathea boninsimensis* Copel. found in the Isl. Yakushima at the height of 700 m.

筆者は 1953 年 8 月 2 日、大隅、屋久島の小杉谷——花之江河間、海拔 700 米を少し越した所、即ち小杉谷より約 2.5 軒奥で製材所を過ぎて第 1 番目の橋のたもとの谷川の土手に小さなヘゴの 2 本自生しているのを発見した。地上莖はまだ判然としていないが葉柄及び羽軸に粗刺がありヘゴに間違いない。附近は伐採後で杉の新植後 2 年目になる所である。附近の人に聞くと、この附近は冬期 1 月から 2 月にかけて約 40 日間位毎日雪が降り 5 寸乃至 1 尺積るとの話である。熱帯性の木性羊歯が冬期 1 ヶ月以上も積雪する所に自生することは生態学上興味ある事実である。尙ヘゴは屋久島の海岸地帯一帯には非常に多く、高い所でも安房——小杉谷間で権現岩より少し登った海拔 500 米附近まで見られ、ここでも冬は雪が積る所であつて興味をひいていたが更に奥地に発見されたことは興味深い事実である。恐らく日本に於ける最高所の生育地であろう。

○静岡県しだフロラに最近加えられた種類 (志村義雄・杉野孝雄) Yoshio SHIMURA and Takao SUGINO: Some species added recently to the fern flora of Shizuoka Pref..

既に本誌に発表されたスジヒツツバ (1952) 及びオトコシダ (1953) 以外に最近 2~3 年間に静岡県しだフロラに新しく加えられた種類について一括して報告する (1953 年 12 月)。